

日本学術会議
経済学委員会数量的経済・政策分析分科会 議事録
第25期 第2回

- 1 開催場所 zoomにてリモート開催
- 2 開催日時 令和3年10月9日(土) 8時50分～9時50分
- 3 出席者 大竹 文雄、西山 慶彦、臼井 恵美子、宇南山 卓、大森 裕浩、川崎 能典、小原 美紀、西郷 浩、塩路 悦朗、瀬古 美喜、高槻 泰郎、中村 さやか、福重 元嗣 (13名)

●来年度の日本経済学会における企画セッションについて

1. 例年通り開催する方針が決定した。
2. 開催の形式について、対面開催、オンライン開催(ハイブリッド開催)、両方の可能性が議論された。
3. チュートリアルセッションの内容および講師依頼候補者について議論した。

●行政データの利用について パブリック・コメントに関する報告

宇南山委員よりパブリック・コメントに対する財務省からの回答が紹介された。

●Covid-19にかかわる、本分科会からの意思表示について

国民生活基礎調査と国民健康・栄養調査が昨年休止した件について、まずは休止した背景について事実確認を行った上で、突発的事案が発生しても、データ蒐集を継続するための仕組みについて議論を分科会で継続していくことが確認された。

●その他今後の活動について

特に意見は出されなかった。

●その他意見(日本経済学会におけるチュートリアルセッションについて)

- ・ 来年度春季大会はオンライン開催が決定しているが、フロアとの討論を円滑に行うためにも、秋季大会では対面での開催を目指した方がよいという意見が出された。
- ・ 海外からスピーカーを招く場合はオンライン開催(ハイブリッド開催)も有効ではないかという意見が出された。
- ・ 企画セッションが満席で入場できないという事例もあったので、その点においてもオンライン開催(ハイブリッド開催)は有益であるとの意見が出された。
- ・ 春季大会と秋季大会のどちらで行うべきかについても議論された。どちらも利点と欠点があるが、秋季大会は多くのセッションが並列で行われるため、多くの人に聞いてもらうためには春季大会で継続する方が良いのではないか、という意見が出された。

- ・ 大前提として、チュートリアルセッションを継続するかどうかについても議論がなされたが、チュートリアルセッションは多くの人にとって有益であり続けるべきだという意見が多くの委員から出された。

(以上)